

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 30 日現在

機関番号：11501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520544

研究課題名(和文) 現代版「日台字音便覧」データベースの整備と「日台基本漢字」発音対照表の構築

研究課題名(英文) Improvement of the Modern "Nichi-Tai Jion Binran" Database and Construction of the Japanese-Taiwanese Fundamental Characters' Contrastive Phonetic Table

研究代表者

中澤 信幸 (NAKAZAWA, Nobuyuki)

山形大学・人文学部・准教授

研究者番号：30413842

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円、(間接経費) 990,000円

研究成果の概要(和文)：『日台大辞典』付載「日台字音便覧」の内容をMicrosoft Excelに入力することで、現代版「日台字音便覧」データベースを作成した。また「日本語漢語基本語彙・台湾語対照表」を作成し、ここで選定した漢字を現代版「日台字音便覧」データベースからピックアップすることで、「日台基本漢字」発音対照表を作成した。データベースはwebサイトで公開し、また印刷して日本および台湾の教育・研究関係者に配布している。そして台湾の学会で成果を発表し、評価を受けた。この「日台基本漢字」発音対照表の効用を検証するため、台湾の教育機関でアンケート調査を実施している。

研究成果の概要(英文)： We first constructed the "Nichi-Tai Jion Binran" database by inputting contents of "Nichi-Tai Jion Binran", which is contained in "Nichi-Tai Daijiten", to Microsoft Excel. And we constructed the database of the contrastive table of the Japanese fundamental kango words and Taiwanese words, besides we picked up the characters which used in this database of the contrastive table, from the modern "Nichi-Tai Jion Binran" database. Then we accomplished to construct the Japanese-Taiwanese fundamental characters' contrastive phonetic table.

We exhibit the database in our web site, besides we printed and bound this contrastive phonetic table. And then we made a presentation at the academic conference in Taiwan, and appreciated. To inspect this contrastive phonetic table, we survey by questionnaire at the educational institutions in Taiwan.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：音声・音韻 日台対照言語学 日台基本漢字 日本語教育 国際研究者交流 台湾

## 1. 研究開始当初の背景

21世紀に入って東アジアにおける人的交流はますます盛んになり、「東アジア共同体」構想も語られるようになった。現在は英語が共通言語となっているが、かつての「漢字文化圏」である東アジアでは、各言語に含まれる漢語を共通言語とした方が効率的である。しかしこの漢語を東アジアの言語コミュニケーションに役立てようとする動きはほとんどない。わずかに佐藤貢悦・嚴錫仁(2010)『日中韓同字異義小辞典』(勉誠出版)が、日本・中国・韓国における漢語の意味の違いを比較し、相互理解に役立てようとしている程度である。発音も含めた現代漢語の総合的な対照研究は現在まで皆無と言ってよい。一方、中古中国語音と日本漢字音との関係、また朝鮮漢字音・ベトナム漢字音との関係については、早くから研究が進んでいる。現代中国語諸方言音についてもその性格が明らかにされている。これらの研究成果を踏まえることで、現代にも通用する東アジア漢字音対照表の作成が可能となっているが、現在のところその動きは皆無である。

台湾語は台湾在住者の約4分の3にあたる人々の母語で、中国語諸方言の一つである閩南方言に属する。その性格は中古中国語音の流れを汲んでおり、清濁の区別、入声韻尾の存在など日本の漢音との近似性も指摘されている。しかしこの近似性を利用して日本人と台湾人との言語コミュニケーションに役立てようとする動きは、やはり皆無である。

ところで台湾が日本によって統治されていた時代に、台湾総督府の小川尚義らによって『日台大辞典』(1907年刊)が編纂された。これは初めての本格的な台湾語辞典であり、近年日本および台湾にてこの辞典の価値は再確認されている。この辞典には「日台字音便覧」という66頁にわたる漢字音対照表が掲載されるが、これは日本漢字音と台湾語音とを総合的に対照させた貴重な業績である。しかしながら「日台字音便覧」は現代では忘れ去られ、これを取り上げて論じた研究はこれまで皆無であった。

研究代表者はもともと日本漢字音史や中国語音韻史を専門としていたが、その後台湾にて日本語教育に従事した。そこで学習者が日本漢字音を習得するに当たって、母語である中国語音、特に台湾語音をほとんど生かしていないという現状に疑問を持つようになった。

台湾語音は中古中国語音の流れを汲んでおり、北京語音と比べても日本漢字音に近い性格を持つ。しかし台湾における日本語教育は主に北京語との対照によって行われ、日本漢字音と台湾語音との近似性を生かした教育は行われていない。その理由としては、台湾においては長らく北京語が標準語とされ、学校教育の現場から台湾語が排除されてきたことが挙げられる。しかし近年この台湾語

は見直され、学校教育でも取り入れられつつある。そこで今こそ台湾語音を日本語教育に生かしていく好機であると考えに至った。

そのような中で前述の『日台大辞典』付載「日台字音便覧」の存在を知ったが、これは日本漢字音と台湾語音とを総合的に対照させており、現代の教育にも生かせるものである。そこでまずはこの先人の貴重な業績を生かすべく、山形大学人文学部から「独創的・萌芽的研究支援」の研究助成金を得て、データベース化を行った。その結果「日台字音便覧」の収録字数は全部で7,277字(うち日本漢字音や台湾語音が付されるのは6,925字)であることが明らかになった。この成果の一部は中澤信幸(2010)『日台大辞典』付載「日台字音便覧」について(『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』7、「研究業績」欄の1)で公表済みである。

## 2. 研究の目的

上記の背景を踏まえ、本研究では次のような目的を設定した。

①明治時代の資料に依拠した「日台字音便覧」データベースを現代の言語状況に合わせて修正し、現代版「日台字音便覧」データベースを構築する。

②日本語基本語彙、および台湾語漢字文献を調査することで「基本漢語」を選定し、そこから1,000字程度の「日台基本漢字」を選定する。

③①と②を融合させ、日本語音・台湾語音・北京語音が対照できる「日台基本漢字」発音対照表を完成させる。具体的な語例も付載することで、実際の言語コミュニケーションに利用可能な発音対照表にする。

④「日台基本漢字」発音対照表は印刷・製本し、日本および台湾の教育・研究機関などに配布する。また現代版「日台字音便覧」データベースと「日台基本漢字」発音対照表の電子データは、webで公開することにより誰でも閲覧・検索できるようにする。

## 3. 研究の方法

所期の研究目的は一人の力で達せられるものではない。そこで本研究では2名の研究分担者を加えることにした。岩城裕之(高知大学)はこれまで日本国内における方言研究で、フィールドワークを重ねてきた。そして特に方言語彙の分野で社会言語学的な分析を続け、成果を挙げてきた。また是澤範三(京都精華大学)はもともと『日本書紀』の用字法を中心に研究してきたが、その後研究代表者と同時期に台湾における日本語教育に携わった。現在は主に台湾大学所蔵の『日本書紀』古写本を書誌学的に調査している。両名とも本研究の分担者として最適の人物である。

また台湾語研究の先端に行く台湾・成功大

学台湾文学系の蔣為文・陳麗君を研究協力者として加えた。この両名には台湾語に関する情報の提供、また台湾における文献蒐集と調査協力を依頼した。

上記の研究メンバーのもと、以下のような行程で調査を進めることにした。

・平成 23 年度

①『日台大辞典』付載「日台字音便覧」の漢音・呉音は、江戸時代の太田全斎『漢呉音図』（1815 年成）に依っている。「日台字音便覧」データベースでも漢音・呉音はそのまま入力してあるが、これを現代の日本漢字音に合わせて修正する。また台湾語音は植民地統治時代の標準であった片仮名表記となっているが、これも現代広く行われているローマ字表記に修正する。このようにして現代版「日台字音便覧」データベースを整備する。

②日本語教科書『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク）に出てくる漢字の熟語を、その提出された課とともに Excel に入力することで、「日本語漢語基本語彙」のリストを作成する。これに台湾語会話集の索引にあるもので、『みんなの日本語』と一致しているものも入力する。さらに『東方台湾語辞典』から、『みんなの日本語』と一致するものに関して語彙を増補することで、「日本語漢語基本語彙・台湾語対照表」を構築する。ここから漢語をピックアップすることで「基本漢語」を選定する。

・平成 24 年度

①前年度②で選定した「基本漢語」をもとに、1,000 字程度の「日台基本漢字」を選定する。

②前年度①で整備した現代版「日台字音便覧」データベースから、上記①で選定した「日台基本漢字」をピックアップする。そして「日台基本漢字」を発音順に並べ直し、日本語音・台湾語音に北京語音も加えて発音対照表を構築する。

③上記②で構築した「日台基本漢字」発音対照表、および前年度で構築した「日本語漢語基本語彙・台湾語対照表」について、台湾における日本語教育の現場でどの程度利用可能か現地調査する。

・平成 25 年度

①前年度③で出した結果をフィードバックし、「日台基本漢字」発音対照表をより利用しやすいものへと改良していく。

②以上の研究で得られた成果を、学会で発表することによって公表する。そして今後の研究の可能性、特に「東アジア共通基本漢字」発音対照表の構築の可能性について方向性を見出す。

③完成させた「日台基本漢字」発音対照表を印刷・製本し、日本および台湾の教育・研究機関などに配布する。また現代版「日台字音便覧」データベースと「日台基本漢字」発音対照表の電子データを web で公開し、閲覧・

検索できるようにする。

4. 研究成果

・平成 23 年度

「日台字音便覧」データベースに台湾語ローマ字（中華民国教育部公布の「臺灣閩南語羅馬字拼音方案」）を入力することで、現代版「日台字音便覧」データベース（7,283 字）をひととおり完成させた。これをもとに今後「日台基本漢字」発音対照表を作成することになる。

上記に加えて、日本語教科書『みんなの日本語』に出てくる漢字の熟語を、その提出された課とともに Excel に入力することで、「日本語漢語基本語彙」のリストを作成した。（717 語。）これに台湾語会話集の索引にあるもので、『みんなの日本語』と一致しているものも入力した。さらに『東方台湾語辞典』から、『みんなの日本語』と一致するものに関して語彙を増補することで、「日本語漢語基本語彙・台湾語対照表」を構築した。これをもとに、今後「日台基本漢字」を選定することになる。

なお、本研究の推進のために、平成 24 年 3 月 13～17 日の間台湾を訪問した。15 日には台湾側の研究協力者である蔣為文・陳麗君と打合せを行い、台湾語研究の現状や現代版「日台字音便覧」データベースの問題点について情報提供を受けた。14 日には南台科技大学、16 日には文藻外語学院と義守大学を訪問し、台湾における日本語教育の現状について情報提供を受け、また今後の研究協力を要請した。

・平成 24 年度

平成 23 年度に完成させた現代版「日台字音便覧」データベースは 7,283 字にもおよぶため、かえって使い勝手が悪い。そこで今年度は、この現代版「日台字音便覧」データベースの漢字から、「日本語漢語基本語彙・台湾語対照表」データベース、および「台湾閩南語推薦用字 700 字表」（教育部作成）に掲載のある漢字をピックアップする作業を進めた。そして「日台基本漢字」発音対照表データベース（1,162 字）を完成させた。また、新たに北京語音（ピンイン、注音符号）を加えた。これによって、北京語で学校教育を受けている台湾人、そして日本で中国語教育を受けている日本人にとっても有用なデータベースとなった。

台湾語表記としては教育部公布のローマ字（「臺灣閩南語羅馬字拼音方案」）の他に、伝統的に使われてきた白話字（教会ローマ字）も存在する。また、台湾の国語（北京語）教育ではピンインではなく注音符号が使われるため、台湾人にはローマ字よりも注音符号の方が馴染み深い。そこで教育部ローマ字を白話字および注音符号へ変換するための一覧を作成した。これによって、データベー

スの台湾語表記を白話字・注音符號へ変換することが可能となった。

さらに、これらの研究成果を公開するためのホームページを作成した。

・平成 25 年度

平成 24 年度に完成させた「日台基本漢字」発音対照表データベースであるが、台湾語表記は教育部公布のローマ字（「臺灣閩南語羅馬字拼音方案」）のみであった。そこで今年度は、これに白話字（教会ローマ字）および注音符號を加える作業を行った。これによって、台湾人にとってより使いやすいデータベースとなった。

以上の研究成果を受け、平成 25 年 5 月 18・19 日に台湾・成功大学で開催された「第六屆台灣羅馬字國際研討會」にて、「日本語教育における「日台基本漢字」発音対照表の可能性について」というタイトルでポスター発表を行った。そして台湾における台湾語研究者、日本語教育研究者からの評価を受けた。特に台湾語研究者の洪惟仁氏（台中教育大学退休教授）からは数々の有益な指摘を受け、その後データベースの修正を行った。

また「日台基本漢字」発音対照表を印刷・製本し、日本および台湾の教育・研究関係者に配布した。

そしてこの「日台基本漢字」発音対照表をもとに、台湾の日本語教科書に出てくる漢語に台湾語音を併記した資料を作成した。これを利用し、台湾・銘傳大学をはじめとした複数の教育現場で、日本語学習者に対してアンケート調査を行った。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 3 件)

- ・中澤信幸 (2011) 「『日台大辞典』と東アジア共通漢字」、『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』8、pp.89-101
- ・中澤信幸 (2012) 「日本語の漢音・呉音と台湾語の讀書音・俗音」、『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』9、pp.59-68
- ・中澤信幸・岩城裕之・是澤範三 (2013) 「日本語教育における「日台基本漢字」発音対照表の可能性について」、『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』10、pp.13-20

〔学会発表〕(計 2 件)

- ・中澤信幸 「『日台大辞典』付載「日台字音便覧」の漢音・呉音」、『日本語学会、2011 年 5 月 29 日、神戸大学
- ・Nobuyuki NAKAZAWA, Hiroyuki IWAKI, Norimitsu KORESAWA, Possibility of the Japanese-Taiwanese Fundamental Characters' Contrastive Phonetic Table with the Japanese Language Education

(日本語教育における「日台基本漢字」発音対照表の可能性について), The 6<sup>th</sup> International Conference on Taiwanese Romanization (第六屆台灣羅馬字國際研討會), May 18~19, 2013, National Cheng Kung University (國立成功大學), Taiwan

〔その他〕

ホームページ

Nobuyuki NAKAZAWA Website

[http://www.7b.biglobe.ne.jp/~nob\\_nakazawa/](http://www.7b.biglobe.ne.jp/~nob_nakazawa/)

本研究で作成した現代版「日台字音便覧」データベース、および「日台基本漢字」発音対照表のファイルを掲載している。

今後このデータベースを利用した CGI を掲載していく予定である。

#### 6. 研究組織

##### (1)研究代表者

中澤 信幸 (NAKAZAWA, Nobuyuki)

山形大学・人文学部・准教授

研究者番号：30413842

##### (2)研究分担者

岩城 裕之 (IWAKI, Hiroyuki)

高知大学・教育研究部人文社会科学系教育学部門・准教授

研究者番号：80390441

是澤 範三 (KORESAWA, Norimitsu)

京都精華大学・人文学部・講師

研究者番号：20554075

##### (3)連携研究者

なし